

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：20105

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K17453

研究課題名（和文）EBN実践に向けた教育・学習モデルの開発：理論-実践ギャップの概念構造に着目して

研究課題名（英文）Developing a teaching and learning model for EBN practice: focusing on the conceptual structure of the theory-practice gap

研究代表者

武富 貴久子 (Taketomi, Kikuko)

札幌市立大学・看護学部・講師

研究者番号：80543412

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：看護学教育における理論と実践のギャップは課題の一つであるが、その定義や課題は明確ではない。社会背景や医療サービスの変化する現状をふまえ、理論-実践のギャップに関する研究の動向を探った。文献レビューで当該テーマに関する論文数は漸増し、2017年にMeSH DatabaseでProfessional Practice Gapsが関連付けられていた。看護を含む医療専門職者教育の卒前卒後教育で、Gapの橋渡しをするシミュレーション教育、コンピテンシーや態度、安全教育やコミュニケーションスキル向上を目指す研究が行われていた。理論-実践のギャップは着目されているテーマであり、概念モデルの確立が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

基礎看護教育における看護実践力の教育は重要であるが、theory-practice gapのメカニズムや理論と実践の統合のプロセスを明らかにならなならず、臨床の場における体系的な教育・学習方法の具体的な提示は未だ課題として残されている。theory-practice gapのメカニズムや概念間の関係を明らかにすることで、看護師を含む医療専門職教育で学修者や指導者におけるtheory-practice gapの橋渡しにつながる教育に寄与するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The theory-practice gap in nursing education is one of the key issues, but its definition and challenges are not clear. We explored trends in research on the theory-practice gap in light of the changing social context and the current state of health care services. The number of articles on the subject progressively increased in the literature review, and Professional Practice Gaps were associated with the MeSH Database in 2017. Research was conducted on simulation education to bridge the Gaps, competency and attitude, safety education, and communication skills improvement in pre- and post-graduate health professional education, including nursing. The theory-practice gap is a topic that has been focused on, and a conceptual model needs to be established.

研究分野：医療専門職教育

キーワード：theory-practice gap

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

医療の質向上を目指すうえで医療チームとして看護師がその専門性を発揮するには、科学的根拠に基づく看護 (Evidence based Nursing; EBN) の実践が求められている。米国では EBN 導入により看護の質が向上し、患者の死亡率の低下や経済的効果も認められている (Beth 2013)。我が国では、長きにわたり看護基礎教育卒業時の実践能力の低下が指摘され、その打開に向けた学士課程の看護教育モデル・コア・カリキュラム案が示されるなど教育の質保証の取り組みが重点化されてきた。この流れを受け、臨地実習の見直しや指導者の育成について病院看護部と看護学部が連携した組織的な取り組み (田中ら 2013) も広まりつつある。臨地実習は、学生が理論と実践を統合し実践能力を育む貴重な学習機会である。そこで学生が直面する「理論 - 実践ギャップ (theory-practice gap)」を、既習の知識と医療現場の技術とを統合して理解できるように指導役割が必要である。

臨地実習で学生を取り巻く要素や関係性は Clinical learning environment; CLE (Papp, 2003) と呼ばれ、カリキュラムの大半を占める臨地実習の CLE は学生の学びに影響する (Dunn, 1995)。Mikko らは CLE と指導者の役割を学生の認識から評価するため Clinical Learning Environment, Supervision and Nurse Teacher (CLES+T) 評価尺度 (2008) を開発し、現時点で 32 言語に翻訳され 52 カ国で活用されている。申請者は、開発者の許諾を受けて日本語版を作成し行った日本の調査で、学生は実習に対する全体的な満足度は高かったが、実習先の教育的な学習環境と理論 - 実践ギャップの橋渡しを含む指導者役割については相対的に低い評価をもつことがあきらかとなった。

基礎看護教育における看護実践力の教育は重要であるが、理論 - 実践ギャップのメカニズムや理論と実践の統合のプロセスを明らかになっておらず、臨床の場における体系的な教育・学習方法の具体的な提示は未だ課題として残されている。本研究では、理論 - 実践ギャップの経験に埋もれた、理論と実践の統合メカニズムを説明できるような概念と概念間の関係性を解明することと設定した。

### 2. 研究の目的

- (1) 看護学生が経験した理論 - 実践ギャップを説明する概念を抽出し、類型化を行う。  
文献レビューで概念分析を行い、さらに、臨地実習で経験した理論 - 実践ギャップの具体的な経験をデータとした質的研究手法より概念の抽出と類型化を行う。
- (2) 理論 - 実践統合学習モデルのプロトタイプを作成する。  
理論 - 実践ギャップの概念とその枠組みから広く専門家の意見を集約し、理論と実践の統合という文脈と照らし合わせた学習モデルのプロトタイプを作成する。
- (3) 理論 - 実践統合学習モデルの合意形成と最終案を作成し立言を行う。  
プロトタイプを周知し、パブリックコメントや、デルファイ法を用いて、学習者である学生を含めた教育関係者の合意形成を経た上で最終案を作成し、立言を行う。

### 3. 研究の方法

#### (1) 文献レビュー

概念分析により、理論 - 実践ギャップにまつわる用語や具体的記述を抽出する。

ロジャーの概念分析方法に従い、以下の 5 段階の手順で行う。

- ・ 関心を寄せる概念とその関連用語の設定
- ・ 文献検索の対象・領域の特定
- ・ 抽出された文献から概念の属性や先行・帰結因子に関する情報の収集
- ・ 収集した情報の分析
- ・ 概念発展の方向性や仮説などの提示

で抽出した概念を記述する。概念間に関連が認められるようであればモデルの作成を行う。本段階は、研究協力者の専門的意見を取り入れながら作業をすすめる。

#### (2) 幅広い意見収集

- (1) で得られた概念について看護師、看護師養成課程の教員や臨床指導者、看護学生から経験や意見を収集し、データとして蓄積する。データ収集のツールとして、Web 上にプラットフォーム立ち上げインターネットを介して広く意見を集める。プラットフォームへのアクセスを簡便にするためにアプリケーションを作成する

### 4. 研究成果

#### (1) 看護教育における理論と実践のギャップに関する教育的課題

看護学教育の課題として、いわゆる理論と実践のギャップが長年取り上げられているが、その定義や具体的な課題は明確とはいえない。看護教育や医療サービスの変化が進む現状をふまえ、理論と実践のギャップに関する研究の動向を探った。

方法は、公開されている情報を類型化するため、内容分析を用いた。文献検索データベースで理論と実践のギャップ (theory practice gap) をキーワードとして論文を検索し、その結果を分析対象とした。年度別の出版数の動向やタイトル、抄録、本文を検証し内容の類

似性から分類した。

その結果、PubMed では、1956 年～2019 年の期間で検索の結果、1975 年以降で 1,155 件の論文等がヒットした。論文数は漸増傾向で、2000 年以降は年間 50 件を超えていた。MeSH Database では 2017 年に Professional Practice Gaps が関連付けられていた。看護領域以外にも、医師、助産師、薬剤師、リハビリテーション技師、歯科衛生士の育成において、教育時期では卒前卒後教育とともに、教育内容では、ギャップの橋渡しのシミュレーション教育、コンピテンシーや態度、安全教育やコミュニケーションスキル向上を目指す研究が行われていた。看護領域に限定した論文では、2000 年～2019 年の MEDLINE、CINAHL 全文絞り込みで、941 件がヒットした。このギャップを学生や初学者が広く経験し、バーンアウトと関連することなどギャップの負の側面が強調されていたが、大学と臨床が collaboration する動きも示唆されていた。2019 年出版の総説ではその実体や定義が明確でないことが示されていた。また医学中央雑誌 Web では、作業療法の領域で 2 件のみ該当した。

医療専門職の卒前卒後教育において、理論と実践のギャップはその研究論文の多さから、着目されているテーマであることが確認できた。しかしながら、その概念は多様で、概念モデルの確立等は今後の研究課題として位置づけられていたことを結論付けた。

看護教育における理論と実践のギャップに関する教育的課題の探究

武蔵 貴久子, RN, PhD. 札幌市立大学  
大滝 純司, MD, PhD. 東京医科大学

背景・目的

- 看護教育の課題の一つとして、いわゆる理論と実践のギャップ(theory-practice gap)が長年取り上げられている
- その定義や具体的な課題は明確にされていない (Greenway, 2019)
- 本研究では、看護教育や医療サービスの変化が進む現状において、theory-practice gapに関するこれまでの研究の動向を明らかにすることを目的とした

研究方法

- 公開されている情報をデータとして類型化する方法として、内容分析を参考にした
- マス・コミュニケーション研究における実証研究の方法の一つ
- 客観的・体系的に明示的な特徴を明らかに知ることにより推論する方法

研究方法

- 文献検索によるデータ収集
  - データベースPubMedで"theory-practice gap"をキーワードとして検索  
→1,155件
  - MEDLINEとCINAHLで全文絞り込み  
→941件中、入手できたのは49件
  - 上記のうち、看護領域の文献は12件
- 分析方法
  - ①について年度別の論文出版数の動向を視覚化
  - ②について概要を整理
  - ③についてタイトル、抄録を検証し内容の類似性から類型化

結果 PubMed検索結果の年別出版数

PubMedでは、1975年～2019年の期間で1,155件がヒットした論文数は漸増傾向で、2010年以降は年間50件を超えていた

結果 MeSH登録について

- "theory-practice gap"は登録なし
- Professional Practice Gaps  
Difference between observed and ideal DELIVERY OF HEALTH CARE and healthcare outcomes that reflect the current state of knowledge.  
(Year introduced: 2017)

## 結果 ②論文の概要

### 抽出論文49件の概要 (1)

雑誌	数
Medical education	8
Medical teacher	6
Journal of evaluation in clinical practice	5
Scandinavian journal of caring sciences	4
Journal of interprofessional care	3
Australian journal	2
公衆衛生学系雑誌	4
心理学系雑誌	4
小児看護学系雑誌	3
その他	10
	49

地域別分類	論文数
ヨーロッパ・北米・オーストラリア/ニュージーランド	40
北欧・スリランカ・イタリヤ・ブラジル	9

## 結果 ②論文の概要

### 抽出論文49件の概要 (2)

- 研究領域
  - 看護師・助産師・医師・薬剤師・リハビリテーション技師・歯科衛生士
- 教育時期
  - 卒前教育・卒後教育
- 教育内容
  - シミュレーション教育
  - コンピテンシー教育
  - 安全教育
  - コミュニケーションスキル向上

## 結果 ③論文の分類 (看護領域12件)

### 抽出論文12件のまとめ

分類	論文の内容
理論・実証中心のtheory-practice gapの記述あり	・タイトルにのみTheory and Clinical Practice ・A Gap in Evidence-Based Theory and Clinical Practice
theory-practice gapの概念	・学生や研究者が広く理解しパーフォーマンスを高める
theory-practice gapを導く教育方法	・研究に依る研究、看護学生のワークライフバランスにインタビューをもち、チームワークの重要性を強調する。ワークライフバランスをアプロプリエーションに促す。理論と「実証」の間の関係を探る。理論と実践の間のギャップを理論と実践の間のギャップを埋める。 ・シミュレーションは、看護学生に臨床実践の準備をさせ、theory-practice gapを埋めるための重要な教育方法
theory-practice gapを導くアプローチ	・教育と臨床の間に、学生がアプロプリエーションを導くこと theory-practice gapを埋める看護実践の重要性として、Practice-First Approachが中心となる ・大学と臨床の間のコラボレーションの重要性
theory-practice gapを導く実践に関する研究	・educationが実践を導くという、教育実践が臨床に活用されるには、リソースと機会を導く必要があるという点に留意する必要がある
看護実践の特色	・研究に依る実践とtheory-practice gapを導く

## 考察

- 医療専門職の卒前卒後教育において、theory-practice gapはその研究論文の多さから、長年着目されているテーマであることが確認された
- 看護の著作の中でのtheory-practiceの言及の初出は1960年代(Falk, 2016)とされ、theory-practice gapの概念は、取り扱われている研究において多岐的で、食の部分が強調され、概念モデルの確立等は今後の研究課題(Greenway, 2019)として位置づけられていた

## 考察

- 先行研究で、theory-practice gapは研究者視点で捉えられており、学習者や臨床の指導者がtheory-practice gapをどのように捉えていたのかの記述は得られなかった
- 今後の研究
  - 臨床の環境で学習者や指導者ほどどのような場面でのようなtheory-practice gapを経験し、とらえているのかについて教育的課題を質的な研究において探究する
- 本報告はJSPS若手研究18K17453の助成を受け実施した研究の一部である

## 文献

- Greenway, K., Butt, G., & Walthell, H. (2019). What is a theory-practice gap? an exploration of the concept. *Nurse Education in Practice*, 34, 1-6.
- Falk, K., Falk, H., & Jakobsson Ung, E. (2016). When practice precedes theory - A mixed methods evaluation of students' learning experiences in an undergraduate study program in nursing. *Nurse Education in Practice*, 16(1), 14-19.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 武富 貴久子, 大滝 純司
2. 発表標題 看護教育における理論と実践のギャップに関する教育的課題の探究
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kikuko Taketomi, Michiko Tanaka
2. 発表標題 The theory-practice gap in nursing education; A systematic review focused on the academic and clinical education
3. 学会等名 6th International nursing research conference of world academy of nursing science
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kikuko Taketomi, Michiko Tanaka, Junji Otaki
2. 発表標題 Nursing students' satisfaction of the clinical learning environment and its related factors in Japan
3. 学会等名 CLES 2018 Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武富貴久子, 田中理子, 大滝純司
2. 発表標題 看護師が根拠に基づく看護を実践するための情報リテラシー教育のニーズに関する検討
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武富貴久子, 田中理子
2. 発表標題 EBNおよび看護研究の実践環境と教育的課題の検討
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

なし
----

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------